

DX化支援の ima と茨城県行方市が協働し、

AIによる鮮度評価と高付加価値シラウオの認証システムを導入

～「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトで、持続可能な水産業のあり方を模索する～

この度、社会のDX化を支援する株式会社 ima（所在地：東京都中央区日本橋 代表取締役：三浦 亜美）とシラウオの漁獲量全国2位を誇る茨城県で霞ヶ浦沿岸に位置する行方市（市長：鈴木 周也）は、2021年から取り組んでいる、「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトにおいて、AIによって客観評価された、鮮度の高いシラウオの認証システムを構築しました。システムの確立により、これまで明確な基準がなかった価格設定において適切な値付けが可能になり、昨今の不安定な漁獲環境において、持続可能な水産資源の活用を模索していきます。

認証システムでは、AIによって鮮度評価されたシラウオを、S・A・B・Cの4段階にランク付け。ランクごとに値付けを行うことで、これまで画一的な値付けしかできなかったシラウオの高付加価値化を可能にしました。特に上位ランクのシラウオは、ミシュラン店など高級飲食店にも採用され、販売単価がこれまでの5倍以上になる例も出たりしています。

行方市では今後、霞ヶ浦全域の全ての漁業者が参加な認証システムの構築、運用を目指し、「霞ヶ浦シラウオ」としてのブランド化、更なる高付加価値化に向けて地域が一体となった取り組みを進めます。

●「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトの発足背景

茨城県南東部に位置する霞ヶ浦は日本で2番目に大きい湖ですが、近年、湖魚（かわざかな）の国内市場の減少や価格低迷の常態化、漁業者の高齢化や担い手不足による漁業者の減少などを背景に、水産資源の有効利用を持続的に進めていくことが難しい現状にあります。国内の漁獲量をみても、年々減少しており、水産業を持続可能にするため、今後は適切な資源管理を進めていく必要が出てきております。行方市周辺のエリアには魚市場がなく販路が限定されて価格の変動が少ないため、漁獲量頼みの経営をする漁業者がほとんどですが、シラウオを鮮度良く出荷することにこだわり、長年取り組んできた漁業者も中には存在します。そうした漁業者の取り組みを支援し、漁獲されたシラウオの高付加価値化を図るため、シラウオの鮮度をAIにより客観的に評価する「霞ヶ浦シラウオ×AI」プロジェクトは始まりました。

鮮度評価にあたっては、本プロジェクトを統括する ima と、AIを中心とした最新テクノロジーを用いたビジネス構築を支援する株式会社 KICONIA WORKS（所在地：東京都渋谷区渋谷 代表取締役：書上 拓郎）が連携しAIによってシラウオの鮮度を客観的に評価するシステムを構築しました。

【会社/自治体概要】

○株式会社 ima

設 立： 2013 年 8 月 14 日

所在地： 東京都中央区日本橋兜町 9-5

代 表： 代表取締役三浦 亜美

U R L： <https://i-ma.jp/>

○茨城県行方市

所在地： 茨城県行方市麻生 1561-9

代 表： 市長 鈴木 周也

U R L： <https://www.city.namegata.ibaraki.jp/>

○株式会社 KICONIA WORKS

設 立： 2018 年 5 月 18 日

所在地： 東京都渋谷区渋谷 3 丁目 10 番 1 号 渋谷 MJ ビル 3 階

代 表： 代表取締役 書上 拓郎

U R L： <https://www.kiconiaworks.com/>

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社 ima

担当：三浦

TEL：03-6824-5787

メールアドレス：info@i-ma.jp

PR 担当（株式会社マテリアル）：早坂

TEL：03-5459-5490

メールアドレス：ima@materialpr.jp